

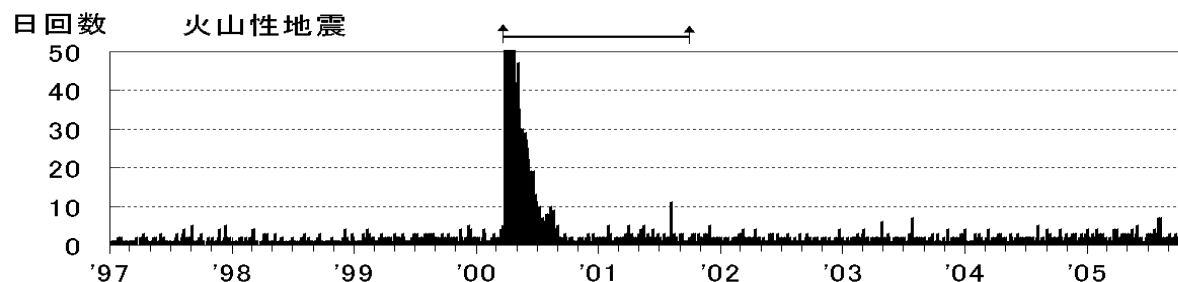
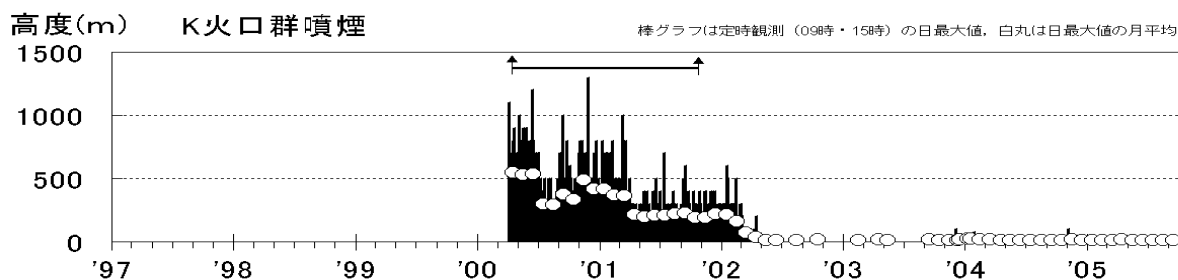
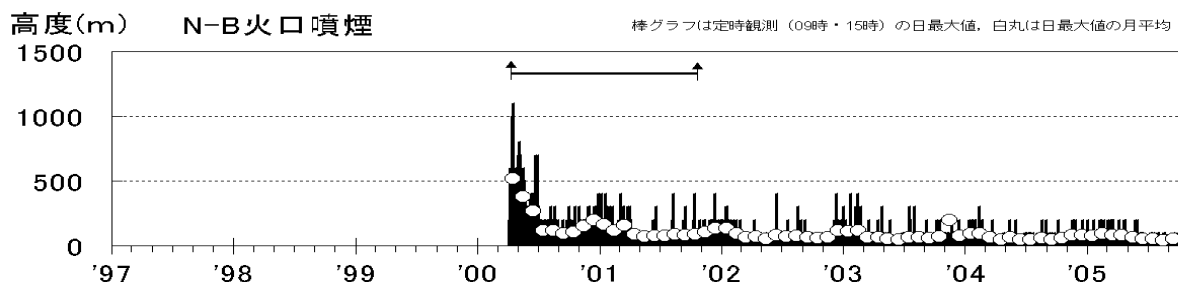
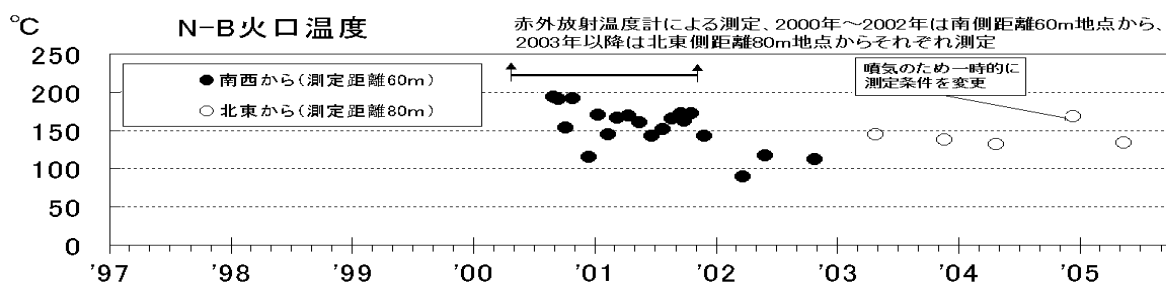
有珠山

1 概況

火山活動は静穏な状態が続いています。

2 噴煙の状況

西山西麓（N）火口群にある N-B 火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。金比羅山（K）火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも少量の噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図（1997年1月1日～2005年9月30日）

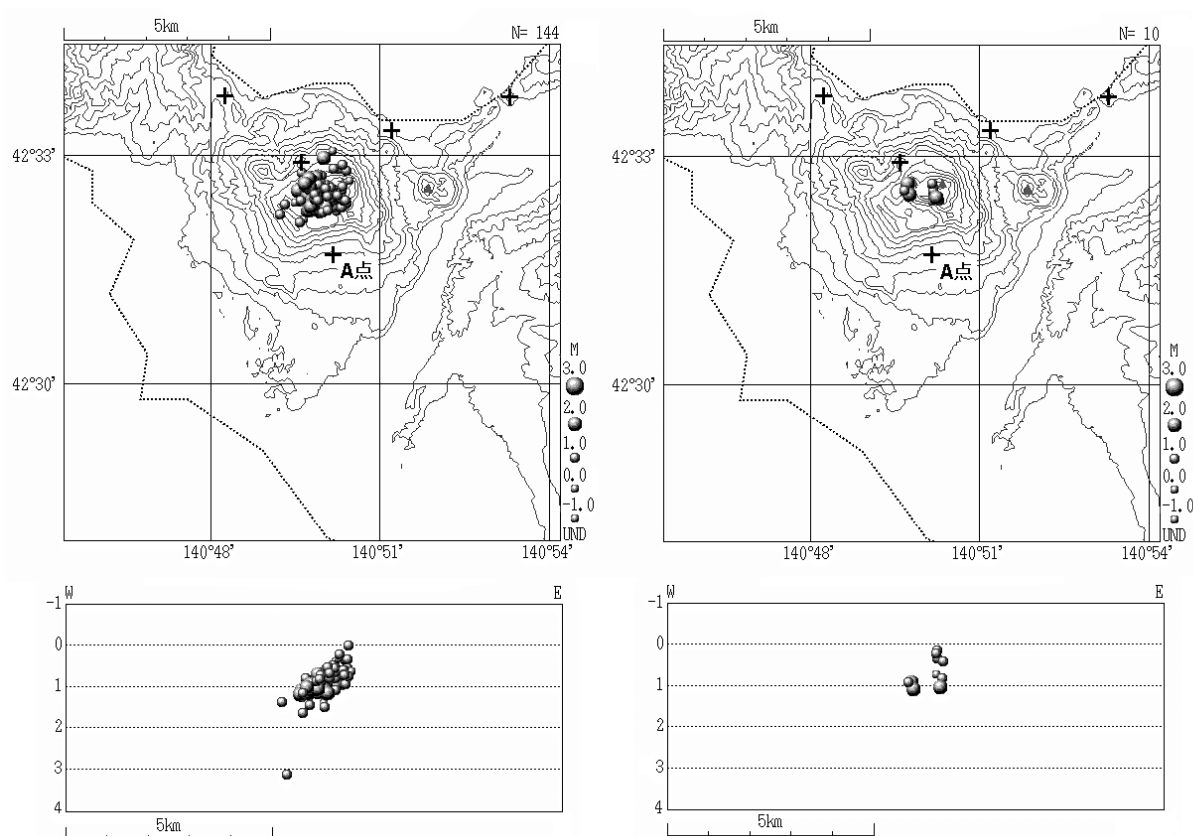
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~3回と少ない状態で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(A点)

2004~2005年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	25	23	28	30	24	22	24	36	18	44	37	29
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

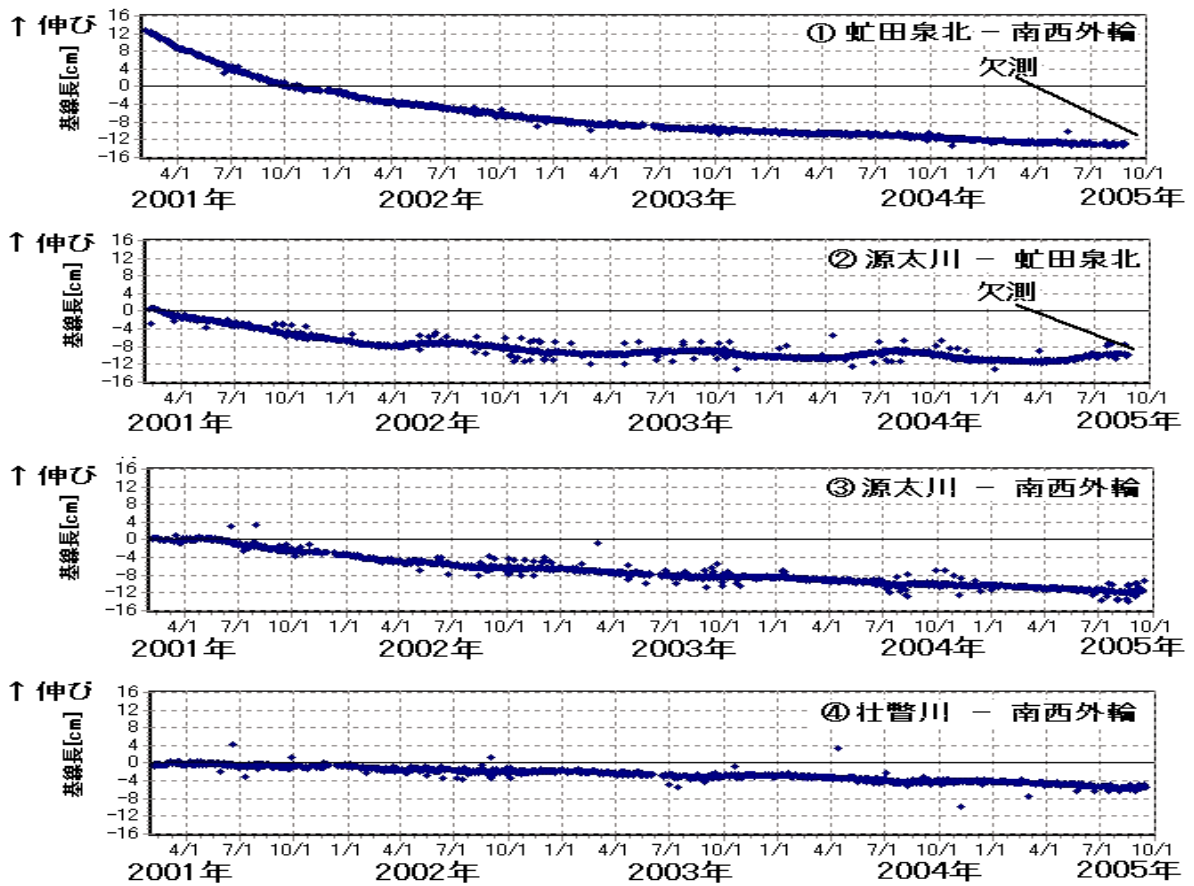
右図は今期間(2005年9月1日~30日)に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間(2004年10月1日~2005年8月31日)に求めた震源を示しています。

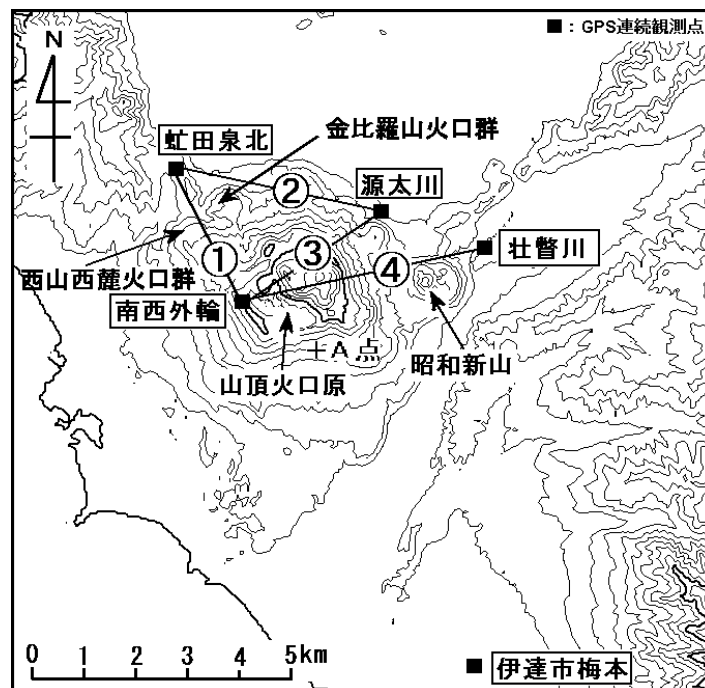
震源は山頂部直下の海面下1km前後に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、新たな火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化 (2001年2月9日~2005年9月30日)



5 上空からの観測結果

9月28日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

西山西麓火口群および金比羅山火口群ではこれまでと比べて特段の変化はありませんでした。山頂火口原および昭和新山でも特に変化は認められませんでした。

西山西麓火口群

N-B火口では、火口壁のほぼ全体から白色の噴気を噴出していました。噴出の勢いは弱く、高さ50m程度で東へ流れていました。

金比羅山火口群

K-11およびK-A火口東壁からごく弱い白色の噴気(高さ10m以下)が認められました。

前回(6月1日)実施した上空からの観測では、K-A火口、K-B火口ともに湯溜まりとなっていました。今回の観測でも同様にK-A火口は薄い青緑色、K-B火口は濃い青緑色の湯溜まりでした。なお、上空からの観測では火口内での熱水対流や湧出は認められませんでした。

昭和新山

昭和新山では白色の弱い噴気が認められました。

これまでの活動と比較し、特に変化は認められませんでした。



北側上空から撮影した西山西麓火口群
(写真:北海道開発局提供)



北東側上空から撮影した金比羅山火口群
(写真:北海道開発局提供)



南側上空から撮影した有珠山山頂部
(写真:北海道開発局提供)



北側上空から撮影した昭和新山
(写真:北海道開発局提供)